

日本氏族会連絡協議会/全国まなべ会所属氏族会

**兵庫まなべ会だより**全国まなべ会ホームページ <http://www.interq.or.jp/power/manabe/>発行/兵庫まなべ会 本部  
〒671-1342

たつの市御津町朝臣1404-8

Tel&amp;Fax# 079-322-2360

編集/兵庫まなべ会事務局

〒673-0008

明石市沢野一丁目2番3号

Tel&amp;Fax# 078-927-8467

新春ごあいさつ

兵庫まなべ会 会長  
全国まなべ会副会長

眞鍋 諄一

**新年明けましておめでとうございます**

みなさまにおかれましてはご家族共ども良いお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃は当会発展に格別のお力添えを賜り心から感謝申し上げます。

昨12月1日付にて発表されました、2009年に世の中にインパクトを与えた言葉に贈られる新語・流行語大賞の年間大賞に「政権交代」が選ばれ鳩山由紀夫首相が受賞しました。日本ばかりでなく米国も民主党のオバマ大統領へと「政権交代」が行われました。これは現状を打破し、健康で幸せを実感できるような明るい社会への変化を求めている表われではと思われまます。国民みなさんが幸せを実感できる世の中になりますようお願いしております。

昨年春にはおとなりで開催された徳島全国大会に我が兵庫から14名の方々をご参加し、全国のまなべさん方と親交を深めて参りました(詳細は本誌5/6頁、全国会報第38号ご参照)。

また、秋には7年ぶりに多可町にて24名のご参加を得て開催された平成22年度総会では、本年5月15日開催の第30回記念神戸大会についての準備を行う大会実行委員会の発足、委員会内の企画部会メンバーなどが承認されました(詳細は本誌2/6頁ご参照)。本大会を成功させるため、引き続きみなさま方のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方のご健勝、ご活躍、そして新しい良い年でありますようご祈念申し上げます。

**本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。****賀 正**

会 長	眞鍋 諄一	Tel&Fax 079-322-2360
副 会 長 (神戸担当)	眞鍋 栄三	Tel&Fax 078-303-4098
副 会 長 (阪神担当)	眞鍋 壽	Tel # 072-759-4836
副 会 長 (播磨担当)	眞鍋 博	Tel&Fax 0795-42-5226
副 会 長 (多可担当)	眞鍋 成之	Tel # 0795-32-2762
幹 事 長	眞鍋 誠次	Tel&Fax 079-426-1967
幹 事	眞鍋 修司	Tel&Fax 06-6422-4285
会 計	眞鍋 正昭	Tel&Fax 0795-32-1702
事務局長	眞鍋 富夫	Tel&Fax 078-927-8467
監 査	眞鍋 亨	Tel&Fax 0795-37-1010

## ◎ 兵庫まなべ会役職別会員数(平成20年12月1日現在)

単位：名

支部名	全 国 役 員				一般会員	合 計	備 考
	顧 問	理 事	評 議 員	小 計			
神 戸		1	3	4	5	9	
阪 神	2	2	3	7	14	21	含む, 三田市・宝塚市
播 磨		4	6	10	11	21	
多可町	1	2	3	6	11	17	含む, 西脇市
合 計	3	9	15	27	41	68	

注1: お知合いの『まなべ』さんで入会をご希望の方がおられれば役員まで何時でも結構、ご一報のほど宜敷くお願いします。一般会員の会費は年額1,000円です。

## ◎ 平成22年度総会が多可町立「エーテルささゆり」で開催

3連休の中日である昨年11月22日(日), 多可町立「エーテルささゆり」にて平成22年度総会が開催されました。多可町での開催は平成14年11月以来7年振り, 2回目の開催です。

前日, 体調不良にて欠席申出の勇・種子さんご夫婦を除き, 出席者は24名が集いました。



全 員 集 合

はじめてご参加されたたつの市の巧さん, 多可町の美代子さんに, 久しぶりにご参加の元保さんご夫婦, よりゑさん, 公一さん, 満代さん, 芳郎さん, 重信さん, 卓弥さん方々と, 健康で皆さんと顔を合わすことができる喜びを満喫し, おしゃべりとアルコールで親交を深めました。

総会では(1)会費, 会報助成金を連続5年(旧は2年)未納の方は除籍。(2)第30回記念神戸大会に関する事項として, 大会日時, 場所, 及び準備・運営のための神戸大会実行委員会, 更に委員会内に企画部会・運営部会等設立。又, 合わせて企画部会のメンバー, 諄一さん, 栄三さん, 成之さん, 誠次さん, 正昭さん, 富夫さん, 亨さんの7名選出。(3)新継志館々員, 及び一般会員増強などについて承認されました。会計決算は6/6頁のとおりです。

JR利用参加者を中心に多可町の小雨にけむる紅葉を楽しみ, 手造り豆腐で有名な「エアレーベン八千代」にてお土産の買い物などを楽しみ帰路につきました。

## ◎ 平成21年度臨時役員会を開催

昨年5月、徳島大会で決定された「次期全国大会開催を兵庫まなべ会とする」旨を受け、去る6月20日(土)、および8月29日(土)、神戸市立しあわせの村研修館会議室にて臨時役員会を開催し、何時、どこで開催するのか、今後どのような体制で全国大会の準備を進めるのか等について協議・検討致しました。



臨時役員会での協議検討

その後の検討、準備を進めて本頁のとおり決定され、これからは細部につき検討中であります。本大会を成功させるために兵庫まなべ会の皆さん方のご協力、ご支援を心からご期待申し上げます。

## ◎ 全国まなべ会第30回総会「神戸大会」の計画概要のお知らせ

- |                      |             |  |
|----------------------|-------------|--|
| 1. 大会名称              | ◆           | 第30回記念 神戸大会  |
| 2. 日 時               | ◆           | 平成22年5月15日(土) 15時30分～  |
| 3. 場 所               | ◆           | ホテルパールシティー 神戸<br>〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-5-1<br>☎078-303-0100, Fax078-303-0211<br><a href="http://www.perlcity.co.jp/kobe">http://www.perlcity.co.jp/kobe</a><br>新幹線新神戸駅、三宮駅よりシャトルバス有り(約15～25分)、<br>神戸空港、三宮駅からポートライナー中埠頭経由で約12～16分 |
| 4. 大会日程              | ◆           |  |
| (1) 第1日              | 5月15日(土)    |  |
|                      | 13:00～15:00 | 受 付  |
|                      | 14:00～15:00 | 副会長会, 婦人部会   |
|                      | 15:30～17:00 | 総 会  |
|                      | 17:00～18:00 | 記念写真撮影, 休憩   |
|                      | 18:00～20:30 | 懇 親 会  |
| (2) 第2日              | 5月16日(日)    | 観 光  |
|                      |             | 酒蔵巡り, 北野町界限, 神戸港周辺クルージング(昼食)<br>生田の森(生田神社), 河原太郎, 次郎祠参拝  |
| 5. 会 費               |             |  |
| (1) おひとり(宿泊の場合)      |             | 20,000円  |
| (2) おひとり(宿泊の場合/奥方様)  |             | 18,000円  |
| (3) おひとり(宿泊なし日帰りの場合) |             | 12,000円  |
| (4) 前・後泊される場合おひとり一泊  |             | 9,500円   |
| (5) 記念写真代            |             | 1,500円   |
| (6) 観 光 代            |             | 8,000円   |

最終ではありません

まなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレ

歴史上「まなべ」姓が文献にはじめて登場したのは「まなべ」姓の多い愛媛や、香川などの四国ではなく、我が兵庫県は神戸市ですが…皆さんご存知ですか。今年の全国大会は大会担当で神戸にて開催されます、これを機に文献の一部を現在風の口訳にしてお届け致します、約800年昔の**生田の森**にタイムスリップされては…。

### 平家物語 巻第九 「二度懸」 よりの口訳

そうしているうちに、**成田五郎**もやって来た。また、**土肥次郎実平**を先頭に、7千余騎も到着し、いろいろの旗指しをあげ、おめき叫んで攻め戦った。

一方、大手の**生田の森**では、源氏が5万余騎で固めていたが、その中に武蔵国の住人、**河原太郎・河原次郎**と言う兄弟がいた。**河原太郎**が弟を呼んで、『大名は、自分は手を下さないが、家人の高名をもって自分の名誉とする。(だが、我らには家人と名づける者もない)だから我らはみずから手を下さなければ、(名誉を得ることは)できない。敵を前におきながら、矢一つをすら射ずに待っているのは、あまりにもじれったくなってきた。この際そなたはここに留まり、後々の証人となれ。』

**高直**はまず城の内へ紛れ込んで、一矢射ようと決心した。

されば千万に一つも生きて帰れることはあるまい』

と言うと、弟の**次郎**は、涙をばらはらと流して、『ただ二人しかいない兄弟が、兄が討たれて、第一人後に残ったとて、どれほどの栄華が保てようぞ。ただ同じところで死のう』  
と言って、最後の有様を妻子の元へいい送り、馬にも乗らず藁草履をはき、弓を杖にして**生田の森**の逆茂木を上り越え、城の内へ入り込んだ。

星あかりで、鎧の毛色もそれとわからない。**河原太郎**は大音声をはりあげて、『武蔵国の住人、**河原太郎私市高直・同じく次郎盛直**、源氏の手、**生田の森**の先陣であるぞ』

と名乗った。城の内ではこれを聞いて、『ああ東国の武者ほど恐ろしい武者はいない。これほど大勢の敵の中へ、たった兄弟2人で入ったとて、どれほどのことをしでかすことができよう。まあしばらく2人をあやしてやれ』

と言って討とうという者は一人もない。この兄弟は優れた弓の上手であったから、矢をつがえては引き、つがえては引きしてさんざんに射た。

『こうなつては、あやしてもおられぬわい。さあ討て』

という声がかかったかと思うと、西国にその名も高い強弓の名手、備中国の住人、**真鍋(部)兄弟**の一人**真鍋(部)五郎**が、兄の**真鍋(部)四郎**を一の谷に残し、一人この**生田の森**に来ていたが、これを見るとよっ引いてひょうと放った。

**河原太郎**は鎧の胸板をつつと射抜かれて、弓杖にすがり、すくむところを、弟の**次郎**が走り寄って、兄を肩にひっかつぎ、**生田の森**の逆茂木を乗り越えて帰ろうとしたが、**真鍋(部)**の二の矢に**河原次郎**の鎧の草摺りのはずれを射られて、兄と一緒にその場に倒れた。

**真鍋(部)**の下人がその場に駆けつけ、**河原兄弟**の首を打ち取った。大將軍、新中納言**知盛卿**がこれを御覧になられて、

『あつばれな剛の者どもかな。これら兄弟の命を助けてみたかったのに』とおっしゃった。

出典：(榊角川書店、昭和42年12月20日発行、著作:富倉徳次郎、

「平家物語全注釈」(下巻)巻第九。

まなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレ

## ◎ 徳島大会に兵庫から14名参加！

昨年5月16日(日)、JR徳島駅前の阿波観光ホテルで開催された徳島大会には当兵庫からは一夫さん、和子さん、諄一さん、寿さん、成之さん、博さん、栄三さん、誠次さんご夫婦、亨さん、厚吉さん、朝恵さん、富夫さん夫婦(順不同)の14名が参加、全国のまなべさん方々と親交を深めて参りました。



第29回 全国まなべ会総会(先祖祭) 徳島大会

平成21年5月16日 於 阿波観光ホテル

総会では光廣讃岐まなべ会々長の名議長のもと見事な議事進行でスムーズに審議が行われました。審議事項で私たち兵庫にとって最重要な第3号議案であります「次回全国大会の開催担当を兵庫まなべ会にお願いする」であります。

来年の全国大会は当会の担当に決定です、皆様方のご支援、ご協力を得て成功させましょう。

久しぶりに実施された講演会では、真鍋俊照四国大学文学部長(阿波まなべ会所属、全国理事)が「弘法大師とまなべ氏」の演題で講演されました、其れによりますと弘法大師は幼名を「真魚(まお)」と言い(下記注1ご参照)、また、母方がまなべと繋がりがあるのではと推測される旨のお話を伺い驚くと共に弘法大師が身近に感じた講演でした。

懇親会では徳島ご自慢のプロの踊り子さんによる技を凝らした「阿波おどり」にはじまり、全員参加による踊りで大変盛り上がりました。この全員参加の踊りで3名の方が免許皆伝賞を授与されました、内2名は兵庫の誠次さんと、朝恵さんでした。

終宴まじか、恒例の会旗引継ぎ、修阿波会長より勝全国会長へ返却された会旗を諄一兵庫会長の手にしっかりと引き継がれました。



表彰される誠次さんと、朝恵さん

明るく観光は時折、小雨の降る中、こわごわ、よちよちと渡った「祖谷のかずら橋」、エメラルドブルーの川と切り立った奇岩奇石の中を嬌声をあげて進む舟下りと楽しいひと時を満喫致しました。

(詳細は全国まなべ会々報第38号をご参照の程)

注1: まなべ島五稜郭公園の碑文まなべ氏由来記に『…朝廷これを賞でて「真魚部」の姓を賜う。…奈良朝に至り二文字制にと…「真鍋/部」氏へと転化した…』とあり、講演の信憑性が高まったように存じます。

## ◎ 平成21年度会計決算報告

## ○ 一般会計決算報告書(要約版)

単位：円

区分	項 目	金 額
収 入 の 部	(1) 前年度繰越金	167,419
	(2) 全国まなべ会本部補助金	13,000
	(3) 寄付	30,000
	ア. 真鍋諄一様(兵庫会長) 10,000円	
	イ. 真鍋一夫様(兵庫顧問) 10,000円	
支 出 の 部	ウ. 真鍋和子様(阪神支部) 10,000円	
	(4) 平成21年度総会々費	100,000
	ア. 8,000円×11名=88,000円	
	イ. 6,000円×2名=12,000円	
	(5) 貯金利子(H20-10/1, H21-4/1, 10/1)	568
	合 計	310,987
支 出 の 部	(1) 平成21年度兵庫まなべ会総会費	89,084
	(2) 兵庫まなべ会だより第2号印刷代(100部)	2,625
	(3) 臨時役員会々議室利用料等(H21-6/20, 8/29)	3,160
	(4) 特別会計へ振り替え支出	100,000
	(5) 祝電, 会報など資料送料(延べ発送数は293通)	24,020
	(6) 立替費振替料	140
	合 計	219,029
	差引き残高	91,958

残高(次期繰越金)明細

○ 一般会計 郵便貯金総合通帳(#14360-71952351) = 91,958 円  
○ 現 金 = 0 円

○ 特別会計 収支なし, 平成21年12月5日満期一年定期 = 400,000 円  
以上の通り相違ありません。

監 査 真 鍋 勇 (印)  
真 鍋 亨 (印)

注1: 当会々計は毎10月1日より翌年9月30日までの1年間です。

注2: 当会の会計は全国まなべ会補助金(平成20年度は13,500円, 21年度は13,000円), 並びにご寄付にて運営されております, 総会等の行事はその都度会費を徴収致します。

## ◎ 平成21年度会計決算監査の実施

昨年11月14日(土)加東市鹿鳴館にて平成21年度の会計決算に関する監査を成之副会長立会で勇・亨監査人により実施されました。監査は特に問題なく無事終了, 内容は上記のとおりです。

## ◎ 勇監査退任, ご苦勞様でした, 元保監査宜しくお願ひします

此の度の総会, 出席予定の処, 体調不良にて直前欠席, これ以上は皆さんにご迷惑をかけるので退任を申出され, 受理されました。後任監査は元保全国評議員(神戸支部)です, 週4日勤務の現役ですが宜しくお願ひします。

## 編集あとがき

- ◆ 兵庫の会報「兵庫だより」第3号発行に漕ぎ着けました。年1回発行につき3年までつづいたこととなります。引き続き皆様方のご支援, ご協力の程宜しくお願ひします。
- ◆ 今年は当会にとってはビッグな年です, 全国大会を5月15日(土)に予定, 大会の成功を願って神戸大会実行委員会発足等, 準備を本格化を致し度。計画概要は4/6頁です。
- ◆ 肩ひじ張らず, 格好をつけず, 自然体で全国からお集まりの「まなべさん」方々に喜んで頂けるよう, 心をこめたおもてなしの精神で準備・運営致し度く存じます。
- ◆ 今年も皆様方, ご家族にとりまして良い年でありますようご祈念申し上げます。

(富夫記)

## 「真鍋城」と称する城郭や、真鍋さんが城主の城跡などご存知ですか！

- ① 和泉国和泉郡下条村(現大阪府泉大津市神明町)の真鍋城(平城) ⇒ 築城は南北朝時代、楠木正成の侍大将で河内在住だった真鍋五郎衛門貞繩まなべごろうえもんさだなわが住み着く、6代下がって主馬兵衛貞友しゅめひょうえさだともは大坂川口合戦で戦死、その子第8代五郎右衛門貞成ごろうえもんさだなりの時代、天正13(1585)年に羽柴秀吉の馬廻り役を命じられ、大阪城に居を構えたことにより撤去され、その後、城跡の一角に一向宗長泉寺が建立され更に、延宝年間に浄土宗南溟寺に改称。
- 現在、城跡を偲ぶものはありませんが、本堂入口に『真鍋城址』の石碑(右の写真)が泉大津市により建立されております。
- 
- ② 岡山県笠岡市の真鍋島城(山城) ⇒ 真鍋島の東端、東の山と称される標高127メートルの城山しろやまにあったが、明治以降の採掘で原形を失い、往時の遺構を知ることは出来ない。此れよりやや西方にあります標高84.5メートルの通称城山じょうやまに真鍋城址があります。規模は小さいが、当時の礎石、石垣などが残り、中世水軍の真鍋城として、当島の開発領主は真鍋四郎裕久まなべしろうひろひさと備中誌鑑に記載されております。
- ③ 備中国都窪郡山手村(岡山県総社市)の幸山城こうざんじょう(山城) ⇒ 城主は細川氏の被官石川久智氏ですが砦城主に真鍋氏の名がみえる。別名甲山城,高山城ともいう。
- ④ 讃岐国木田郡太郷(現高松市木太町)の向城むかいじょう(平城) ⇒ 城主に真鍋弥助祐重まなべやすけすけしげ すけぬし、祐重そごう親子がみえる。城の名ははじめ奥城と言われていましたが、対立する十河氏方の神内城と白山神社を挟んで東西に向かい合っていたので向城と呼ばれるようになった。ちなみに、真鍋氏は香西氏に属していました。
- ⑤ 伊予国新居郡中萩村(現在愛媛県新居浜市中村)の真鍋城(平城) ⇒ 築城は真鍋近江守孝綱おうみ まもむかひつなで広さは一町三反歩の広さだった由。先の和泉国真鍋城と略々同一の規模であり、城主が関連していると思われる。城跡は子孫が事業に失敗して逼塞し大正3年に売却され、現在は民家が建ち並び城址を偲ばせるものは残っている井戸1ヶのみである。
- ⑥ 伊予国宇摩郡中曾根(現愛媛県伊予三島市中曾根町)の松尾城(山城) ⇒ 築城主にまなべおおいのすけみちかね 真鍋炊大介通周まなべおおいのすけみちかねがみえる。豊臣秀吉の四国征伐による毛利軍団の小早川隆景と壮絶な激戦に善戦するも力及ばず郎党を含め全員戦死。

出典: 昭和57年12月1日発行大阪まなべ会創刊号, 及び平成2年2月吉日発行真鍋武著『まなべ氏一口メモ』。

まなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレまなべのアレコレ



